

日本防災士会

奈良県支部 広報

オフィシャル・ホームページがオープン！

<http://bousainara.com>

- イベント情報・研修報告・防災豆知識等、随時更新中！
- 防災研修会・講演会等へ、講師を派遣します。

■ 巻頭寄稿

「防災士に期待するもの」

～継続・発展的活動によって地域防災を牽引する～

2003年10月に防災士が誕生してから7年半が経過し、2010年3月末までに約3万9千人という多数の防災士が誕生した。しかし地域社会の中で防災士が組織的に活躍しているのかといえば、必ずしもそうとは言えない現状がある。

人間は、リスク(危機)を「影響の大きさと発生確率の積(かけ算)」で認識する。多くの一般市民は「地震などの自然災害は、自分たちの生活に大きな影響を与える」ことを十分に理解しているが、発生がほとんどない自然災害よりも、自分たちの健康・医療、リストラや倒産、年金・住宅ローン、子ども・孫などの教育などといった日常生活の中で発生する問題を、より大きなリスクとして認識する傾向がある。これが日常生活(平時)において防災が進まない1つの要因である。

しかし自然災害は、発生確率こそ小さいものの「ひとたび発生すれば、命を奪われる可能性もある」という「1アウトで即退場」のリスクである。そのため、災害の危険性とその対策について日常生活で継続的に訴え続ける人々が必要であり、そのような「地域防災力向上のための牽引役」が防災士に期待されている役割である。

ところが「防災士としての活動」について明確なビジョンを持たず(持てず)に、活動を行わない人間も多い。また、やる気のある防災士が個人プレーで地域活動を行うものの、その防災士が引退すると活動そのものがストップする場合もある。



防災活動のポイントは「継続的かつ発展的な活動を行うための仕組みを作ること」である。例えば、定期的に知識・スキルアップのための講習会等を実施することで防災士同士の絆を保ち続ける、個人の技量で行っている活動を教材・活動指導案のようなかたちで見える化・体系化することによって防災士同士が共有できる知恵にする、などが考えられる。

防災士会は平成21年度、奈良県の安全・安心まちづくりアドバイザーとして3名(木本氏、大和氏、植村氏)が委嘱され、奈良県安全・安心まちづくりチャレンジ事業に参加し、4つの活動指導案を作成するなど、全国の中でもたいへん先進的な活動をされている。今後も継続性・発展性の仕組みづくりに基づいた、更なる活躍を期待している。

富士常葉大学大学院 環境防災研究科 木村玲欧

奈良県安全・安心まちづくりアドバイザー

■ 「安全・安心まちづくりチャレンジ事業」への着手

平成21年度 奈良県安全・安心まちづくりアドバイザー派遣事業・チャレンジ事業として県内の自主防犯・防災活動の組織化・活性化を推進するため、地域で先進的に活動しているリーダー等を発掘し、登録・研修・養成し、県や市町村の取り組みをサポートするアドバイザー制度が創設・着手されました。

■ アドバイザーの登録と研修経緯

平成 21 年 9 月、奈良県安全・安心まちづくり推進課よりアドバイザー制度への協力依頼があり、当初は三郷町秋留地区自主防災会としての登録趣旨でしたが、奈良県支部の活動拡大のため、木本・大和・植村の3名で登録致しました。(県内10団体32名でスタート)

10月4日付で委嘱後、研修会・勉強会等を6回重ね、4つの活動指導案の作成とアドバイザー制度の派遣第1号として、河合町安心安全課長からの依頼をかわきりに、桜井市纏向地区社会福祉協議会から依頼の2件の派遣講演・研修会を実施してきました。

「4つの活動指導案」

- ①家具等の転倒、飛来・落下防止対策
- ②自主防災活動アクションプランの作成・評価
- ③自主防災活動ニュースの発行
- ④タウンウォッチングと防災マップづくり

「2件の派遣講演・研修会」

- ①テーマ:家具等の転倒、飛来・落下防止対策を学ぶ(見て、触れて、体験して)
平成 22 年 1 月 22 日 河合町 河合町総合福祉会館 豆山の郷 参加者 50 名
- ②テーマ:緊急時に役立つロープワークと三角巾
平成 22 年 2 月 20 日 纏向地区社会福祉協議会 桜井北人権ふれあいセンター 参加者 40 名



■ 今、求められているのは？

「家具転倒防止」は 97%の方が初めての体験でした。インパクトドライバーを扱うのは初めてでしたが、自信が付きしました。自分達の手で何とかしたい、明日からでも少しずつ実施していきたい、という意欲と意識に満ち溢れた研修会でした。

また「ロープワークと三角巾」は、普段からあまり意識していませんでしたが、改めて大切なことだと実感しました。また実技では、参加者の皆さんは、納得いくまで技術の習得に努めておられました。双方とも和気藹々で活気ある研修会でした。

そんな中で、今求められているのは防災の身近なことを全員参加で、見て・触れて・体験して学ぶ「現場と直結した推進活動」にあると痛感しているところです。常に実施結果を分析・評価・反省し、対策を検討する姿勢は崩すことなく、今後のアクションプランに反映しながら推進活動に邁進する所存です。

■ 奈良県知事から感謝状

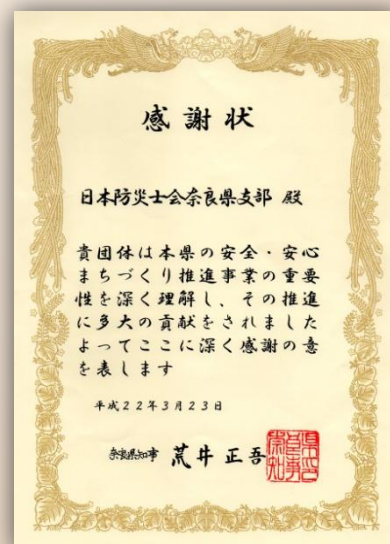
本年 3 月 23 日に開催された「安全・安心チャレンジ事業・報告会」で、防災士会奈良県支部が「地域の安全・安心を高める活動指導案50」の内、4 指導案を作成し、事業に協力したとして奈良県知事から感謝状を頂きました。

作成した指導案は以下のとおりです。

1. 家具の転倒・飛来・落下防止対策を学ぶ
2. 自主防災ニュースを発行する
3. タウンウォッチングと防災マップづくり
4. アクションプランで自主防災活動を展開させる(秋留地区自主防災会)

日本防災士会奈良県支部

(秋留地区自主防災会 防災リーダー) 大和武史



■ 平成 21 年度 日本防災士会奈良県支部 事業報告

1. 奈良県支部関係

A. 奈良県・県内各市・関係団体への表敬訪問

- 4 月 27 日(月) : 奈良県庁・奈良市役所
- 5 月 7 日～15 日 : 県内各市役所(橿原市除く)

B. JP(郵便局長会)各地区会長への協力要請

- 6 月 15 日(月) : JP各地区会長へ防災士会加入の呼びかけを依頼

C. 奈良県支部ホームページの開設準備

支部活動の情報提供と支部活動の充実を目的として、奈良県支部ホームページの開設を目指して、準備会(仮称)の発足などについて協議しました。

D. 各種防災講演・研修会への講師派遣

奈良県内の市町村及び各自治会・各種団体から依頼を受けて、防災研修会等へ講師を派遣しました。

尚、派遣講師については役員会で協議し、研修会に応じた講師を派遣しました。

<講師派遣依頼団体>

- 奈良県主催「防災士養成連続講座」(6 月 21 日、1 月 16 日)
- 天理市防災講演会(6 月 28 日) <秋留地区防災リーダーとして>
- 桜井市巻向地区福祉協議会(7 月 26 日)
- 三宅町石見自主防災会(9 月 6 日)
- JP(郵便局長会)中和地区防災研修(11 月 19 日)
- 河合町防災研修会「家具転倒・飛来防止」(1 月 22 日)
- JP(郵便局長会)中和地区防災研修会(6 月 25 日)
- 三宅町ボランティア協議会(7 月 3 日)
- 葛城市尺土自治会(7 月 11 日)
- 王寺消防団災害図上訓練(9 月 13 日) <DIG訓練として>
- 桜井市初瀬地区自治会(12 月 13 日)

2. 役員会、専門部会

平成 21 年度の役員会は、2 ヶ月に 1 回定期的に開催し、当面の課題や日程調整、支部旗購入や各地域における防災士の活動の報告を行いました。広報部会は、年 2 回の広報誌の発刊を行い、その都度記事の構成や整理及び関係団体への執筆依頼などを行いました。教育・研修部会は、7 月に「県外研修会(兵庫県:人と防災未来センター他)」、10 月に「三角巾の使い方とインフルエンザ予防(奈良市防災センター)」、11 月に「亀の瀬地滑り対策地現地研修会」を開催しました。

3. 本部関係

本部関係では、1 月 30 日に開催された日本防災士会西日本支部長会議(大阪市)へ木本支部長と植村事務局長が参加し、主に日本防災士会のNPO法人化について意見交換を行い、翌日に開催された、「防災シンポジウム in 神戸」には、奈良県支部からも多数参加しました。

4. 関連団体との連携

平成 21 年度は、8 月 30 日に行われた奈良県主催「防災総合訓練」へ初めて参加しました。また、奈良県が進める「奈良県安全・安心アドバイザー事業」のアドバイザーとして、支部から木本支部長・大和副支部長・植村事務局長の 3 名が任命され、奈良県のチャレンジ事業への協力を進めています。さらに、県内及び大阪府下の各種団体から防災研修会等での講演依頼があり、今後、関係機関との連携を深めていくことになりました。

■ 大阪府建築士会主催フォーラムに参加して

大阪府建築士会主催「第 16 回安心・安全・心はぐくむフォーラム(日本防災士会奈良県支部後援)」の帰宅困難者対策ワークショップに昨年春の準備段階から参画し、1 月 16 日(土)ハービスOSAKA(大阪市)で「徒歩帰宅支援マップ」の必要性について報告いたしました。

大阪府の上町断層帯で M7.8 の地震が起こると 142 万人の帰宅困難者が出ると予想され、現在大阪府は官民一体で対策を協議中です。奈良県民の 3 人に 1 人は大阪府に電車・車で通勤通学しており、私もその一人です。

避難ルートを記した民間会社の地図もありますが、「徒歩帰宅支援マップ」大阪府北部版は、一枚の地図にルート無記入で、配布済みです(平成 20 年 5,000 部)。府の経費不足のため、配布枚数が少なかったのと、堺方面の南部版の制作が止まっているのが非常に残念です。

昨年 7 月、JR 大阪駅から東大阪市役所まで大地震を想定した徒歩帰宅避難ハイクをワークショップで実施し、北部版の検証を行い、改めてマップと日頃からの周到な準備の必要性を痛感しました。関西では徒歩帰宅困難者対策への取り組みが少なく、ワークショップは終了しましたが、徒歩帰宅避難ハイクは続けたいと思います。



日本防災士会奈良県支部 事務局次長 平井紳二

■ 防災士紹介 No.3 奥田 仁 ー防災士になってー

息子の誕生をきっかけに防災士を目指し資格を取得したのは、平成 19 年 1 月でした。防災士になって 3 年あまり経ちますが、この 3 年間は、市の災害ボランティアや消防団の活動に参加し、いろいろな経験を積むことができました。

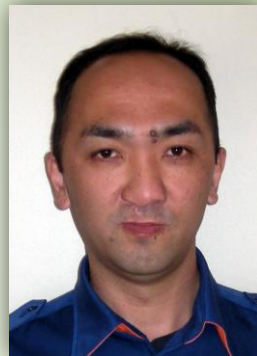
災害ボランティアでは、新潟県中越沖地震・兵庫県佐用町豪雨災害と自然災害の脅威、また被災者の方の心情などを知る事ができました。消防団では 2 度の大きな火災出動で火災の恐ろしさを体験し、防災士として大きなものを得ることができた実感しています。

現在、全国ネットワークの技術系災害ボランティアの研修に参加することで、他府県の防災・災害ボランティアの方々と交流を持つことができ、奈良県外の地域の防災・減災活動の情報交換もできるようになりました。

今後は私が得た知識や技術を奈良県支部の皆さんと共有し、日本防災士会奈良県支部が奈良県で防災のリーダーシップを発揮し、地域防災力向上に少しでもお役に立つことができれば幸いです。

※「技術系災害ボランティア」：震災や水害などで、人の力では対処が難しいガレキや木材などを重機や動力機器を利用し対処するボランティアです。

日本防災士会奈良県支部 奥田 仁



■ 「防災士シンポジウム in KOBE」に参加して

平成 22 年 1 月 31 日兵庫県公館にて防災士会兵庫県支部の主催で開催。基調講演は前兵庫県知事貝原俊民氏。「発生当初、停電や幹部職員の登庁の遅れなどで県庁が機能停止に陥った。大災害では公的機関の救援は遅れる、自分たちの命は自分たちで守る自助共助の精神が大切」と語った。パネルディスカッションでは東灘消防署長だった西村幸造さん(75)は当時、生存者を優先して亡くなった人の救助を後回しにしたことについて、公的機関による救助「公助」には限界があると示唆し「行政では取り組めない細かな防災活動を担うのが防災士」と指摘。「自治会活動が活発な地域は住民による救出、救助がスムーズだった」と振り返った元兵庫署警備課長藤本雄策さん(69)は「防災士が中心となって日頃から地域住民の防災意識を高め災害に強い街づくりに貢献しましょう」と訴えた。2人は退職後、防災士の資格を取得している。



日本防災士会奈良県支部 会計 古瀬博之

■ ホームページ開設にあたって

平成20年4月、防災士自身がよりよくその能力を発揮し、奈良県下の防災士の活動を強力にバックアップするネットワークの実現と、防災士をはじめ各地域や職場で防災に取り組む皆さんへの情報提供をという考えの下に奈良県支部が結成されてから2年が経過いたしました。しかし、まだまだその活動は不十分であります。

今回、このような課題を解決していく一つの手段として、奈良県支部のホームページを開設することになりました。今後、このホームページが防災士相互の情報交換やスキルアップに活用されて行くこと、また、各地で防災に取り組む方々の活動に少しでもお役にたてばと考えております。

日本防災士会奈良県支部 事務局長 植村信吉

■ 編集後記

奈良県支部の皆様方のお陰で少しずつでは有りますが、支部活動内容も充実してきている現在、新たに奈良県支部のホームページの立ち上げにより、会員・地域の皆様及び防災関係者の皆様の情報共有及び活動の一助になれば幸いです。

自助→共助へ、相互の研鑽を！

広報部長 佐々木 章

■発行日：2010年7月10日

■発行者

日本防災士会奈良県支部 支部長 木本喜信
〒631-0014 奈良県奈良市朝日町 2-395-10

■事務局

日本防災士会奈良県支部 事務局長 植村信吉
〒636-0215 奈良県磯城郡三宅町上但馬 1-5
電話：090-8378-1106
Email：info@bousainara.com